

< その他、取組に特徴のある事例 >

～ふるさとに山河あり～ 農村環境向上への取組

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	群馬県 <small>あがつまぐん</small> 吾妻郡 <small>ひがしあがつままち</small> 東吾妻町 <small>おおや</small> 大谷			
協定面積 5.1ha	田(100%) 水稻	畑 -	草地 -	採草放牧地 -
交付金額 41万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)			
		多面的機能増進活動費 水路・農道等管理費 鳥獣被害防止対策費 役員報酬		19% 12% 12% 7%
協定参加者	農業者 17人 非農業者 4人			

2. 取組に至る経緯

当地域は、平成14年から17年にかけて基盤整備事業を実施したことから、水稻の生産性と農家の耕作意欲が飛躍的に向上した。

一方、それに伴い集落の景観も変貌し、トンボやホタル、ドジョウなどの水生生物が減少し、自然生態系の悪化が顕在化した。

また、集落内でも農家の高齢化や担い手の減少が深刻化するとともに、イノシシによる農作物被害の増加も懸念されていたことから、農地の保全と良好な農村環境の実現を目的に、第1期対策の平成15年度から協定を締結した。

3. 取組の内容

水路・農道の草刈りや整備を共同で行うとともに、農地と一体となった周辺林地の下草刈りや機械・農作業の共同化に取り組んでいる。

イノシシの被害を防止するため、電気柵を設置し、協定参加者全員で電気柵の管理・点検等を実施している。

調整ため池の整備により、水生生物の保護や育成に努めるとともに、非農家と連携して、農道脇へのブルーベリー等の植栽やハナショウブ等による景観作物の植え付けを行い、多面的機能を増進する活動の充実を図っている。



ため池による水生生物の保護



ブルーベリーの植栽と電気柵による鳥獣害対策

[集落の将来像]

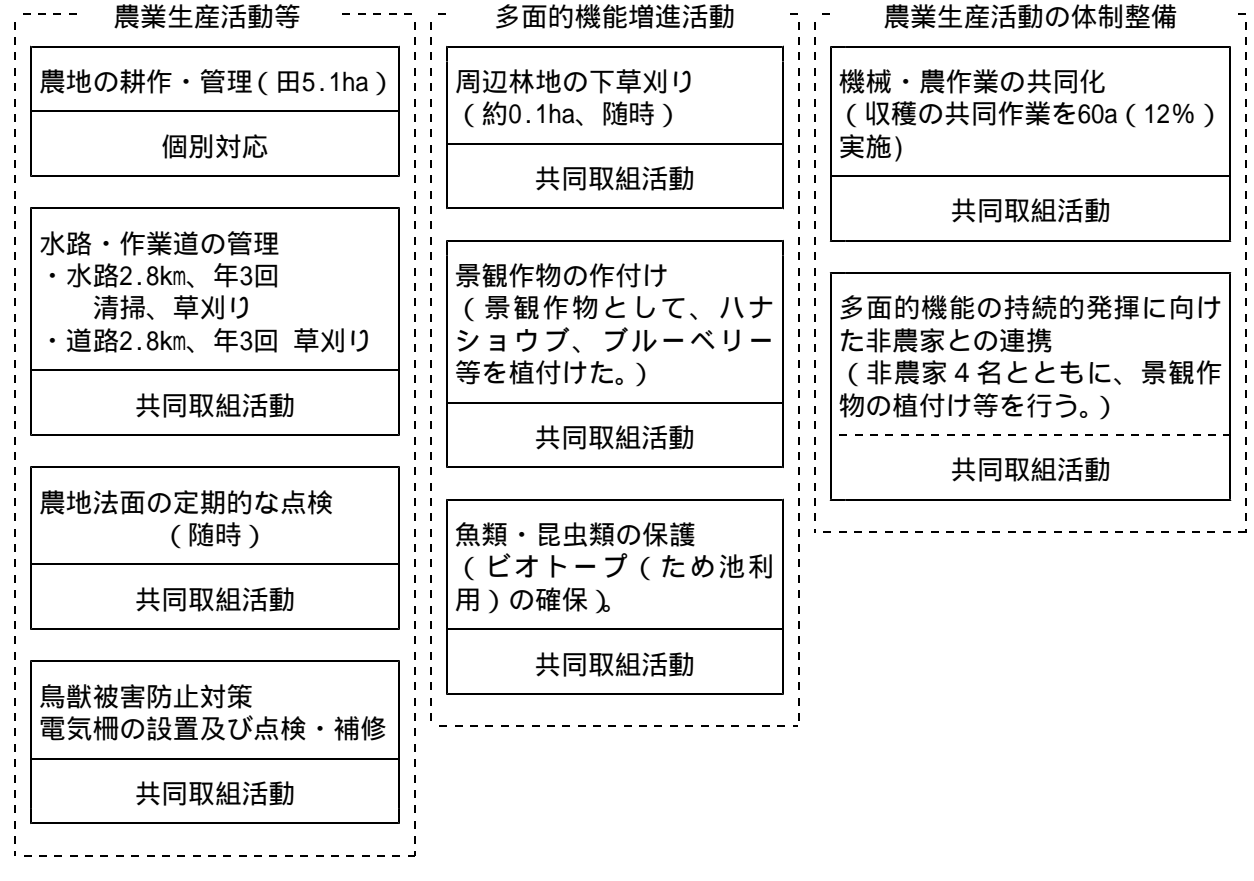
ため池を利用したビオトープにより魚類や昆虫類を保護・育成し、自然生態系の保全を図ると共に、ブルーベリーの植栽等による良好な景観形成を実現し、集落の農村環境を向上させる。



[将来像を実現するための活動目標]

調整ため池の確保及び整備、景観作物の播種・育苗・植付け、電気柵の設置等を実践する。

[活 動 内 容]



4 . 取組による変化と今後の課題等

本制度の取り組みを通じ、話し合いの機会等が増え、集落共同体としての意識が高まり、水路・農道等に係る共同作業が活発に行われるなど、集落機能の活性化が図られた。

また、ため池によるビオトープにもホテルをはじめとした水生生物の増加が見られ、自然環境の改善に着実に結びついている。

今後は、米価の低迷や生産調整等の厳しい情勢の中、水稻の有利販売に繋がる方策や都市住民との交流なども模索していきたい。

[平成20年度までの主な成果]

畦畔、水路、農道の適正管理による農地保全と良好な景観の形成により、農村環境の向上が図られた。

電気柵の設置により、イノシシ等による農作物被害を効率的かつ効果的に防止できた。

高齢化が深刻化する中、利用権の設定や農作業の委託により耕作放棄が防止できた。